

令和8年度総合型選抜（総合Ⅰ/Ⅱ）グループワーク課題ならびに出題の意図

グループワークでは、複数名の他者と取り組む協働作業における発言や行動をとおして、筆記試験や個人面接では評価が難しい、チームの中でのコミュニケーション力や建設的な議論への貢献、目的の実現に向けたチームでの合意形成への貢献等々を評価している。なお、本学は理工系大学であるため、活動の最終的な目的は、科学技術やエンジニア的な視点から設定している。今回、令和8年度選抜で出題した課題のうちの2つを公表する。

(課題1)「もったいないこと」を減らすには

- ▷ 環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ・マータイさんが、2005年の来日の際に感銘を受けたのが「もったいない」という日本語でした。しかし、私たちの生活の中には「もったいないこと」があふれています。今回は、生活や社会の中で「もったいない」と感じることをできるだけ多く挙げてもらいます。その後、それらを分類し、整理した上で考えてもらいます。
- ▷ このグループワークは、「もったいない」と感じることをとおして、「もったいないこと」を減らすためにテクノロジーが貢献できることを考えるブレインストーミングです。
- ▷ 「もったいない」と感じることをとおして分類・整理した結果、気がついたことなどを報告してもらいます。

(出題の意図)

日常生活やモノづくり、サービスの授受など、あらゆる場面においてムダ・ムラ・ムリが生じることで、生産性の低下、必要以上のコスト高など、社会全体に大きな影響を与えている。

そこで、日本独自の文化・精神である「もったいない」について改めて考え、持続可能な社会を構築するために工学や情報工学はどのような貢献ができるのかということを、柔軟な発想を交わしながら議論を深めてもらいたい意図で出題した。

「もったいないこと」とは何か、どのような場面で生じるかなどを考え、共有・分類することで、現状では考慮されていない機能やサービスの提供を実現する新たなテクノロジーや社会構築につながるアイデアを出していく。様々な意見をグループの中でまとめていくなかで、グループ活動ならではの気づきが得られることを期待し、目的に向かって協働するスキル・態度、工学的意識をもつことを評価した。

(課題2) 情報過多による諸問題

- ▷ インターネットの普及と発展に伴い、情報の発信や受信が容易になったために、情報過多(受け取る情報が多すぎる状態)になっています。その結果、情報を正しく取得・理解・判断・選択ができなくなり、それに伴う諸問題が発生しています。そのため、個人の興味や好みに合わせてアルゴリズムが情報を選別するような仕組みが開発されていますが、すべてが解決できたわけではありません。今回は、情報過多により生じている具体的な諸問題をできるだけ多く挙げてもらいます。その後、それらを分類し、整理した上で考えてもらいます。
- ▷ このグループワークは、情報過多により生じている具体的な諸問題について考えることをとおして、情報を正しく取得・理解・判断・選択するための新しいテクノロジーやサービス、システムを考えるブレインストーミングです。
- ▷ 情報過多により生じている具体的な諸問題について整理・分析した結果、気がついたことなどを報告してもらいます。

(出題の意図)

インターネットの普及をはじめとした昨今の情報化社会において、世界にあふれる情報の適切な取捨選択・取扱いは、あらゆる場面において必須となっている。一方で、情報過多ともいえる現状にあって、個人が日常的に情報を発信・受信する中で、情報の不適切な取扱いや、パーソナライゼーションデジタル疲れといった諸問題が発生する事態を招いている。

そこで、情報過多に起因する諸問題を、抽象的ではなく具体的に考えることで、情報を適切に利活用するために工学や情報工学が貢献できることは何かについて議論を深めてもらいたい意図で出題した。

グループ活動の中で、情報化社会の課題を明確化し、それらを共有することで、情報を適切に取り扱うことの意義や重要性について考える。さらに、具体的なテクノロジーやサービスにつながるアイデアを出すために、グループの中での意見をまとめ、グループ活動ならではの気づきが得られることを期待し、それらに繋げるスキル・態度、工学的意識をもつことを評価している。